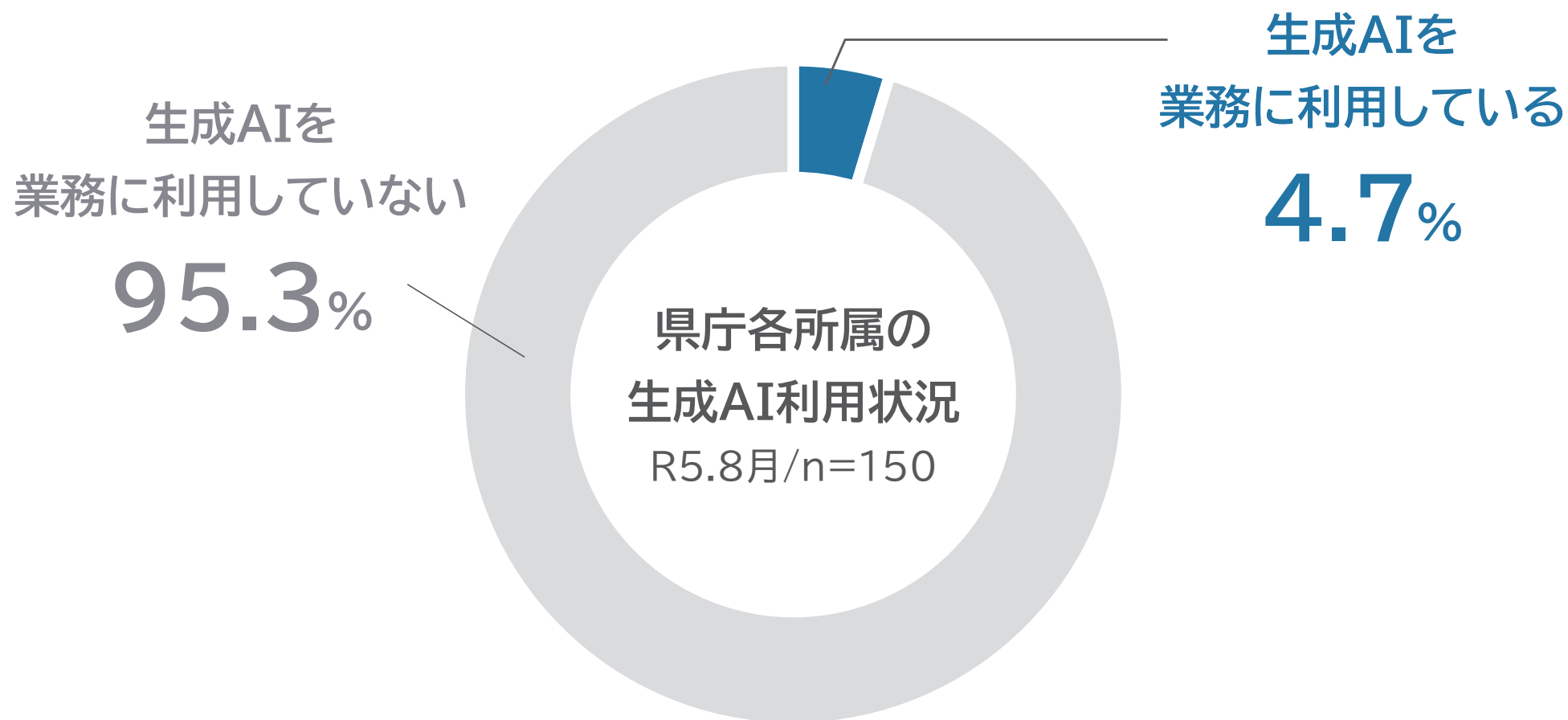


生成AIツールの導入による 業務効率化に向けた取組

知事直轄組織デジタル戦略局デジタル戦略課

令和5年度までの取組

- 生成AIを業務において適正かつ積極的に利用するため、デジタル戦略課では、令和5年6月に「静岡県生成AI利用ガイドライン」を策定
- 利用環境を整備し、管理職員・一般職員それぞれに向けた研修を開催したもの、利用は低調だった



利用促進に向けた課題の抽出

- ・ 利用者に向けたアンケートを数回行い、2つの課題を抽出した

課題 01

利用環境の問題

- ・ インターネット環境で提供されている生成AIツール(ChatGPTなど)は、庁内ネットワークからは直接アクセスできない
- ・ 本県独自の規程などを踏まえた、実務に即した回答が得られない

課題 02

利用方法の問題

- ・ 生成AIへどのような指示を出せばより良い回答が得られるかわからない
- ・ 業務への活用方法がわからない

課題分析を踏まえた5つの取組

課題01:利用環境への対応

取組
01

庁内ネットワークで利用可能な環境の整備

取組
02

インターネット上にない情報を
追加学習させられる生成AIツールの導入

課題02:利用方法への対応

取組
03

生成AIプロンプトレシピ集の作成

取組
04

デジタル戦略推進本部会議における
生成AIの実演と周知

取組
05

モデル所属の募集と好事例の創出

環境の
整備

アジャイルで
取り組む！

更なる
利活用へ

課題01:利用環境への対応

- ・ 庁内ネットワークから簡単に利用ができ、かつ利用者が独自の情報を追加学習させることができる(RAG機能)生成AIツール「exaBase」を導入

※RAG:Retrival-augumented generation(検索拡張機能)

(例)答弁作成の場合

これまで



答弁スタイル(現状、取組、課題、対応)を踏まえて、行政資料等を元に議会答弁を作成

生成AI(RAG機能)を活用

過去答弁や行政資料を追加学習



◎生成AIが答弁スタイルを踏まえた叩き台を作成
◎構成検討や文章作成の時間を削減

RAG機能により問合せ対応や原稿作成など、生成AI利用の拡大が期待できる

課題02:利用方法への対応

- 生成AIからより良い回答を得るためにはプロンプト(生成AIへの指示文)が重要
⇒「生成AIプロンプトレシピ集」を作成

約50個の生成AI利用アイデアを掲載

01.アイデア出し

- アンケート調査の設計
- SNSのリスクアセスメント
- クレーム電話に対するロールプレイ ほか

02.文章作成

- セミナーの紹介文の作成
- 誤字脱字チェック
- SNS投稿案の作成 ほか

03.コード作成

- Excel関数の作成
- Excel計算式の解説
- コーディング ほか

04.検索

- 用語の説明
- 難しい用語の言い換え説明
- Excelの機能検索 ほか

課題02:利用方法への対応

- 「exaBase」の導入とあわせ、先行導入所属として16のモデル所属を選定
- モデル所属における23の活用事例を集約し、全庁に事例共有を行った

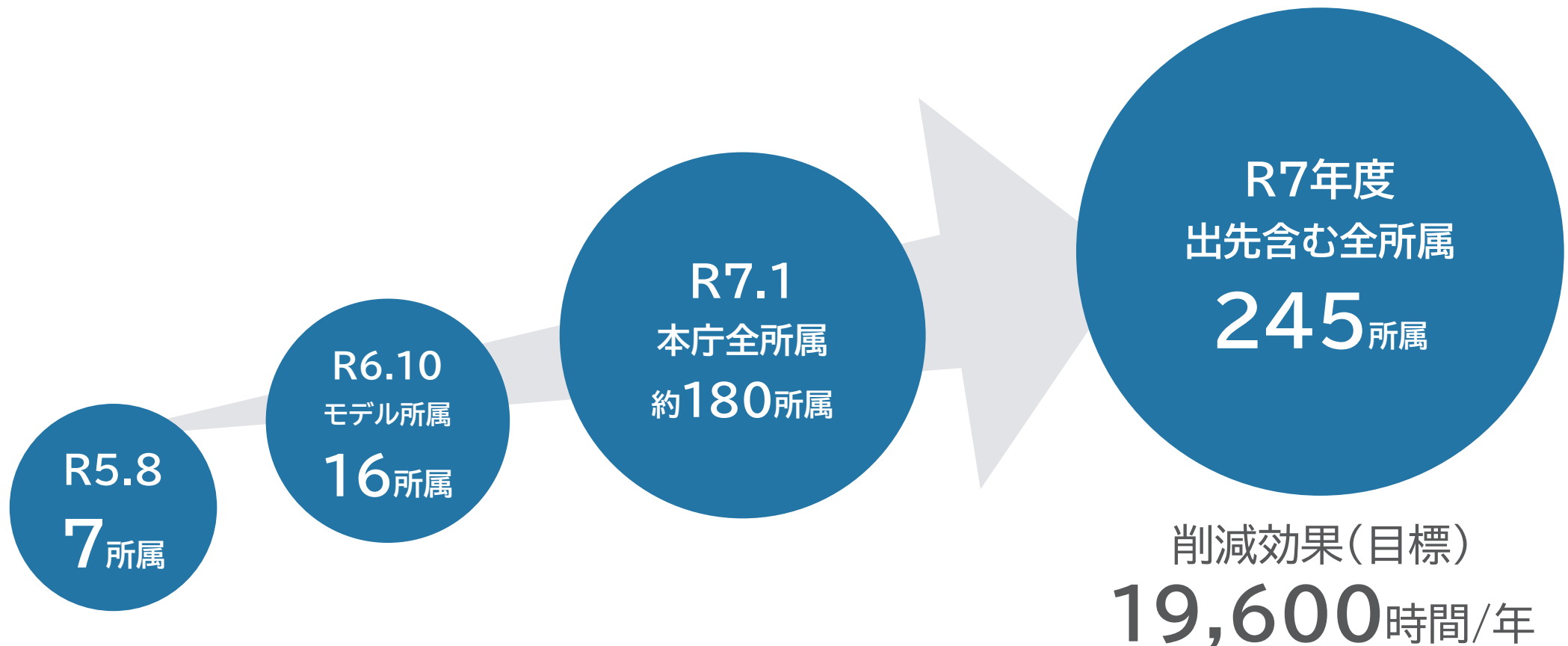
(例)

活用シーン	内 容
大量の文章を要約	農地・農業用施設の災害復旧事業の概要やポイントを初任者でも理解できるよう要約
問合せに瞬時に回答	約150ページ以上あるマニュアルを登録することで問合せ内容をAIが回答
煩雑な校正作業を代替	SNSにおける各種ガイドラインへの適合性チェックに活用

文章の要約や資料作成だけでなく、exaBaseのRAG機能の活用による審査業務や問合せ対応業務への応用など、複数の優良事例が創出された

今後の展望

- exaBaseでの検証結果により、生成AIの利用により平均して1人あたり5分/日の削減効果が得られることが判明
- 令和7年度は、生成AIツールを全庁展開し、さらなる利用促進を図ることで、全庁で19,600時間/年の削減を目標として取り組んでいく



- 生成AIは社会にイノベーションを引き起こし、幅広く生活の質を向上させる

シンポジウムやメディア等で県の取組を幅広く発信

一般社団法人 静岡県中部未来懇話会

2024 春季シンポジウム

人工知能研究の世界的権威であるレイ・カーツワイル氏によると、AIが人類を超えるシンギュラリティは約20年後に発生すると予測している。今後、AIをイノベーションとグローバルイノベーションはさらに強いものとなり、ビジネスシーンでの活用機会が増えることは明らかだ。その反面、AIによる雇用機会の損失、技術格差、そして社会不平等の増大などが懸念されている。現在、我々はAIが自ら知識を獲得する機械学習の技術が実用化された第三段階の中に入っている。AIが自動的にデータの特徴を抽出するディープラーニングの活用可能となっている。その中で、静岡におけるAI活用の現状はどうなっているか？また、将来の見通しを分析し、AIを具体的にどのように活用すれば機会を、また機会損失を防げるのかを探究する。静岡新聞社・静岡放送共催。

■ 日時 2024年6月12日（水） 13時30分～16時30分

■ 会場 ホテルアソシア静岡3階「駿府の間」（静岡市葵区黒金町）

■ テーマ 「AI（人工知能）：静岡における機会と脅威」

■ 基調講演（13時30分～14時50分） 六井 淳氏
静岡県立大学経営情報学部経営情報学教授（経営情報学）
演題 「AIの現状と今後」

■ リレー講演（15時～16時）

演題 「静岡県におけるAIの活用について」
静岡県デジタル戦略局
デジタル戦略課長
曾根 英明氏

演題 「企業のAI活用と経営戦略」
静岡県デジタル戦略局
デジタル戦略課長
曾根 英明氏

静岡県が本庁の全職員を対象に生成AIサービス導入、業務時間の削減効果も可視化

大豆田 崇志 日経クロステック／日経コンピュータ

静岡県は本庁の全職員向けに生成AI（ExaBase）を導入し、業務時間の削減効果が分かったため、2025年度には県庁全体の導入を目指す。導入したのは、エクサウィザーズ社（東京）が提供するサービス「ExaBase（エクサベース）」。

導入したのは、エクサウィザーズ社（東京）が提供するサービス「ExaBase（エクサベース）」。

導入したのは、エクサウィザーズ社（東京）が提供するサービス「ExaBase（エクサベース）」。

導入したのは、エクサウィザーズ社（東京）が提供するサービス「ExaBase（エクサベース）」。

【デジタルTODAY】◎生成AI利用促進で新ツール導入＝静岡県

24/10/22 07:30 KP05

静岡県は、生成AI（人工知能）の利用促進を図るため、県独自の規定やマニュアルをAIが参照しながら回答を生成する機能を搭載したツールを導入した。事務作業の効率化に役立てる考えで、一部の部局で実証し、12月ごろから全庁で活用する方針。

県は2023年6月に生成AIのガイドラインを策定し、環境整備を進めてきた。しかし、生成AIが行政知識や県独自の運用を踏まえた回答を作成できないといった課題が挙がっていた。

導入したのは、エクサウィザーズ社（東京）が提供するサービス「ExaBase（エクサベース）」。

導入したのは、エクサウィザーズ社（東京）が提供するサービス「ExaBase（エクサベース）」。

導入したのは、エクサウィザーズ社（東京）が提供するサービス「ExaBase（エクサベース）」。

導入したのは、エクサウィザーズ社（東京）が提供するサービス「ExaBase（エクサベース）」。

行政が率先して生成AI活用を前提とした仕事の進め方の転換を図っていく

デジタル戦略課

